

図 書 館 だ よ り

ご 存 知 で す か

○ 文献入手の情報の交換——数理解析研究所——

迅速な図書の整理、複写とそして貸出しはサインだけでOKと、だいたい図書館業務の一部が軌道に乗ったところから、次のことをはじめた。

○ 数学関係の Informal Publication 10大学入手リスト 一月刊—

文献情報交換の手始めとして、41年12月から始めたもので、さしあたっては各10大学（北大・東北大・東大・東教大・東工大・名大・京大・阪大・広大・九大）で収集した数学関係の Informal Publication（プレプリント、講義録、テクニカル・レポート、セミナー・レポート等いずれも謄写印刷のもの）を、毎月数研に報告していただき、カード目録を作成して Cumulate する一方、リストを作成して全国140余の研究機関に配布している。近い将来には10大学だけでなく全大学にまで広げる予定。もちろんこれに相互のハード・コピー・サービスがともなっていることはいうまでもない。

商業ルートに乗らないため、入手はきわめて困難である。収集には世界各国の研究機関と連絡をとる一方、World Meetings（科学・医学関係の会合予定掲載誌）によって Symposium, Conference, Seminar の予定を知り、必要ならそれらの会合の予稿集をも収集している。また Clearinghouse for Federal Scientific and Technical Information から出ている Fast Announcement 等も Informal Publication 収集のひとつのたてとしてしている。

○ TOSBAC 3400 による数理解析研究所欧文雑誌所蔵目録 一週刊—

図書館業務機械化の第1歩として試みたもので、雑誌の所蔵状態を電算機に記憶させておき、入手状態の変更は毎日おこなう。目録は週1回、ラインプリンターで打ち出している。（所要時間20分）

教官には1人当たり約20種の雑誌のコンテンツ・シート・サービスをしているが、雑誌現物の目次からでなく“カレント・コンテンツ”という目次ばかりを集めた雑誌から目次を写しとっているので、（現物到着より約2ヶ月位早い）コンテンツ・シートが各人にとどいても、雑誌そのものは未着である。このため、雑誌の所蔵状態を通知するため、各人の当該誌のみを選択して目録を打ち出したり、交換、購入等の入手別、また購入誌の場合は書店別に分けて打ち出す等して、サービスの向上と、業務の機械化をはかっている。（雑誌種類数約500）

次には Informal Publication, 雑誌, 図書の順序で文献検索のサービスを開始したいと計画している。

○ 学術雑誌総合目録—自然科学・和文編1968年版—の活用を

——文献の相互利用・資料の迅速な探索に——

1966年に刊行された学術雑誌総合目録自然科学・欧文編, 1967年の人文科学・欧文編に続いて、このたび自然科学・和文編が刊行され備え付けられた。この総合目録は文部省が、わが国の全国的な文献の相互利用, 相互協力の振興に資するため作成したもので、国内の各大学, 研究所, 国立国会図書館, 研究機関（官公庁, 民間会社）等における自然科学関係の和文学術雑誌について所蔵状況を調査し、編さんしたものである。国内のすべての資料を迅速に探索し、利用するためにこの目録を大いに活用して下さい。